

THE NEW FARMERS

ニューファーマーズ

- ◆郷土を興す農業者
- ◆日本を伸ばす農業者
- ◆世界を拓く農業者

70th
ANNIVERSARY
No.253
JAEC会報誌

contents

ご挨拶	1
農業人材交流事業 70年の歩み	2.3
70周年記念	
元常務理事 松下 隆映氏	4
元常務理事 本田 親盈氏	5
郷 崇倫氏	6.7
研修生からの便り	8.9
協会の動き	10.11



NEW FARMERS 創刊号

ニューファーマーズ 249号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページに掲載するほか、Emailでも配信します。



ニューファーマーズ No.253 |
2023年(令和5年)1月(年2回1月、7月発行)
ホームページ: <https://www.jaec.org>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒144-0051 東京都大田区西蒲田5-27-14 日研アラインビル8階
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
FAX: 03-5703-0255

ご挨拶

常務理事 坂元良二



明けましておめでとうございます。2023年もどうぞ宜しくお願いいたします。

コロナ禍で予定どおり渡航出来なかった研修生達が米国での1年半研修を終えて2022年12月22日に帰国しました。彼らが旅立った1年半前の2021年6月頃は、日本国内に限らず世界各国でCOVID-19感染拡大が止まらない中であり、日本と米国のコロナ感染防止のための水際対策の間隙をぬっての渡航でした。今回彼らの帰国前の修了式は、在シアトル日本国総領事館で開催され、BBCC大学関係者や受入農家の事業関係者が出席されました。久しぶりに大使館で開催された修了式ですが、このような日米事業関係者が一堂に会して行われるセレモニーは「海外での長期研修事業の意義の大きさ」を両国間交流の成果として印象付け、再認識する機会となりました。

ご存じのとおり、国際農友会による要請活動により、2021年度から海外研修参加者に助成金(農業教育高度化事業: 上限60万円/人)の予算化が実現しました。しかしながら、昨年今年とコロナ感染拡大の影響を真面に受けてしまい、例年より応募者数がかかなり少ない事態が続いています。助成金制度の予算措置継続のためには一人でも多くの青年が助成金を活用した実績を上げなくてはなりません。現実として応募者増には至っておらず、成果・実績を証明出来ない状況です。このまま予算執行が不十分な状況が続けば、

助成金の必要性を訴えてきた国際農友会からの要請が全体的を射ていないと判断され、貴重なサポート体制が潰れてしまい兼ねません。

今まで国際農友会は「国際農業人材育成議連」を通じて農林水産省に海外派遣事業における成果、参加者減による研修費等を含む様々な問題点を説明し、予算確保や都道府県への助成金活用の働き掛け等をお願いしてきました。議連役員からは、コロナ禍では仕方がなかったが今後募集活動方法を検証し、応募者を増やす具体策を講じて欲しい、目標として100名を超える青年が農業研修生海外派遣事業に参加するような効果的な啓発活動を展開して欲しいと改善要求をされています。

わが国の財政赤字が膨らんでいる状況下で、ポストコロナをにらみ今後の経済成長のための戦略を立てる必要があり、ロシアによるウクライナ侵攻で世界の食料事情の悪化の現実を鑑みると、食料自給率が先進国の中で一番低いと云われる日本では、食料安全保障の基本的な対策として、食料の確保のみならず、自給率をあげるための国内における食料生産を担う人材の育成・確保も重要な課題であります。これを契機に日本の農業や農村地域全体の活性化を考えた総合的な戦略を考えていくべきなのだと思います。

海外農業研修事業は、自らの力で将来を切り開くと云う若い青年達が経験すべき姿がそこにあり、正に今の時代に求められる「海外留学」だと思います。今こそ、若い人達の間に渦巻いている閉塞感を打ち破るためにも、この助成金を活用してこの研修に参加して、将来に大きな希望や夢を持ちながら、自らを拓く精神を育成することがとても重要だと思います。

OB・OGの皆様には、周辺の青年達に農業研修生海外派遣事業の素晴らしさを伝えて頂き、1人でも多くの青年達に海外研修への参加の呼び掛けて頂きますよう、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

農業人材交流事業

1952年に始まった海外農業研修生事業が70周年を迎えました。

これまで海外農業研修に参加した人は15,000名を超えますが、農業現場に限らず、流通、加工から販売等の農業関連産業の広い分野で、或いは、海外の農業技術協力等で活躍されています。それは私たちの誇りであり、海外農業研修がもたらしている成果といえるのではないのでしょうか。

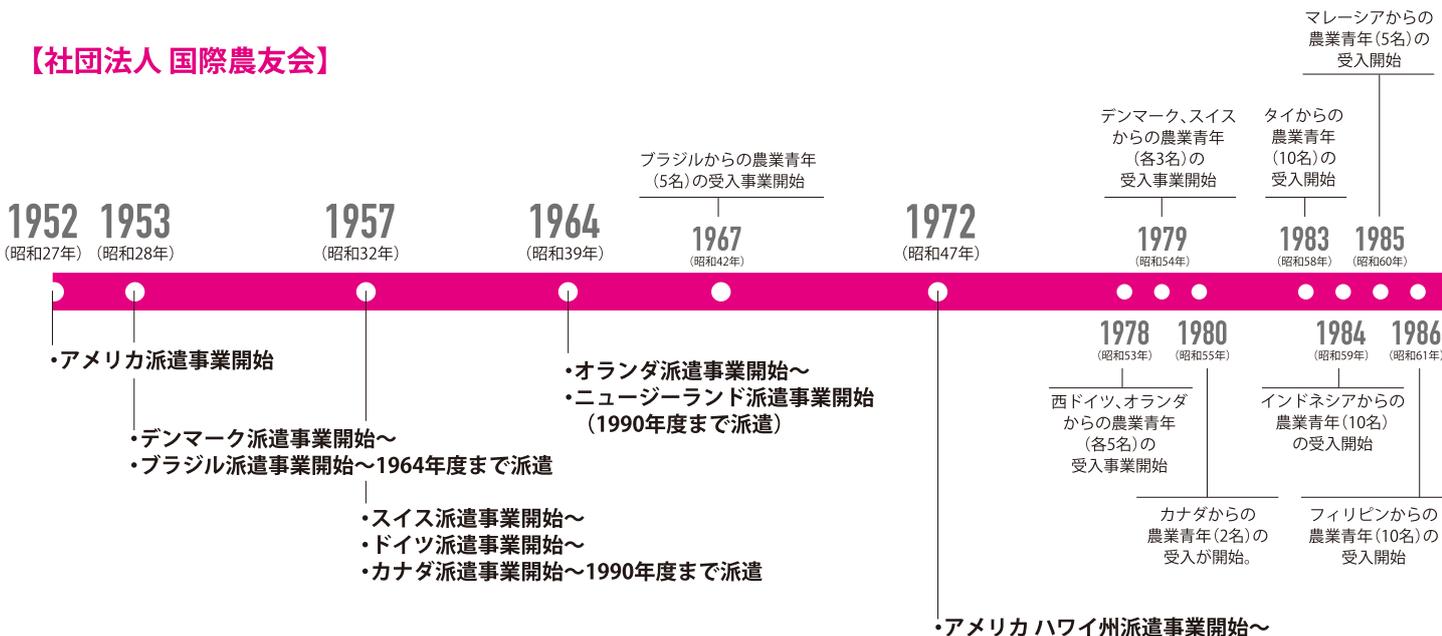
農業研修生事業の最大の特徴は、農場主と共に仕事をしながら農業を自ら学ぶという長期滞在型の研修（OJT：On the Job Training）であることです。実体験の伴う深い係りの中から、忘れ難い思い出と永遠の絆が今も確かに生み出され続けています。この70年間、協会は様々な事業を手掛けてまいりました。歴史をひも解きその一つ一つを紹介するには紙面が足りませんが、各事業は人材育成と世界平和に貢献すべく、先駆者たちの漲る熱意と、OB・OGの皆様の惜しみないご助力のおかげで実施されてきました。

農業者が持つべき役割、農業者の精神や意識など、つまり農業者としての哲学や理念を若い世代の農業者達に示すことにより、それらが受け継がれて、次世代を担う農業者が育成されることに繋がっており、その研修理念は日本で研修をした欧州・アセアンの研修生達にも引き継がれていますし、協会が実施した様々な事業にも脈々と流れています。

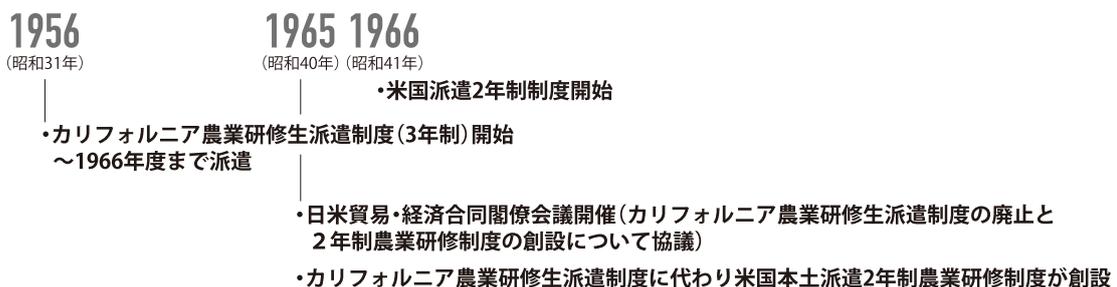
今回のNew Farmersでは、70周年を記念してその歴史を振り返り、今一度海外農業研修の真価をかみしめると共に、そこからさらに広がった受入事業、草の根事業等を踏まえ、世界中の農民たちと手を取り合って進んで行くこれからの国際農業者交流協会の未来に思いを馳せて頂けたらと存じます。

農業人材交流事業の変遷

【社団法人 国際農友会】



【社団法人 農業労務者派米協議会】 【社団法人 農業研修生派米協会】



業 70年の歩み

その他の主な事業について

○日本国際農村青年連盟(略称:国農連)

1961年(昭和36年)に発足。米国1年制事業や他の派遣事業修了者の全国OB・OG組織で、海外移住希望者の支援、青年海外協力隊事業の支援、機関紙ニューファーマーズ発行などに関わった。1988年3月の国際農友会と農業研修生派米協会合併に伴い解散した。

○国際農友会(OB・OGの全国同窓会組織)

1988年の組織合併時は各県組織会長をメンバーとする全国組織会長会議が担っていた活動を引き継ぎ、2009年(平成21年)に任意団体として発足。担い手の確保・育成の活動支援(啓発活動)、会員組織の活動支援、会員相互の情報交換と交流促進、日本農業への提言(ロビー活動)などを行っている。

※名称について

発足に際して、組織名称について総会で議論された結果、旧社団法人国際農友会と同じ名称に決定した。

○国際協力活動

2007年(平成19年)、JICA草の根事業に応募。フィリピンの高原野菜栽培が盛んなベンゲット州にて炭・木酢液・堆肥を活用した安全野菜栽培技術普及活動を開始した。後に同国農業省の要請で対象地域を拡大し、2019年度まで5期(13年間)に亘り普及活動を行った。

2021年(令和3年)、外務省の日本NGO連携無償資金協力事業に応募し国際協力活動を継続中。

フィリピンの安全野菜栽培普及活動に加え、同国内の野菜流通改善活動を実施している。



アメリカの大地を耕す



農場主と談笑するアメリカ農業研修生



ドイツ研修生は他の国の研修生たちとも交流



オーストラリアコース
女性研修も活躍

【公益社団法人 国際農業者交流協会 (JAEC)】

社団法人国際農友会と社団法人農業研修生派米協会がそれぞれの実施事業を充実強化するために解散統合し、新たに社団法人国際農業者交流協会が設立され、それまで両団体で行われていた派遣事業を継続実施

・米国派遣2年制を1年半のプログラムに改良～

・オーストラリア派遣事業開始

・内閣府から公益社団法人の認可を受け名称を公益社団法人 国際農業者交流協会と改める

2006
(平成18年)

2012
(平成24年)

2018
(平成30年)

1993
(平成5年)

ペルーからの農業青年
(5名)受入開始

2000
(平成12年)

中国から農業青年
(6名)受入開始

2008
(平成20年)

技能実習生事業による
フィリピン国ベンゲット州から
農業青年(10名)受入開始※

2022
(令和4年)

技能実習生事業による
タイ国からの農業青年の
受入(5名)事業開始

※ JICA草の根事業(炭・木酢液を活用した安全野菜栽培技術普及活動)での技術習得を促進するために同地域の農業青年を日本に招聘して同技術について学ぶ機会を提供している

1988
(昭和63年)

1988
(昭和63年)

海外派遣事業 70周年に寄せて



社団法人国際農業者交流協会
元常務理事 松下 隆映
(鹿児島県 S39米1/S40米2)

海外派遣事業が70周年を迎えるにあたり心よりお祝いを申し上げます。

昭和27年にまだ戦後の混沌の中、海外のことなど考えられもしなかった時代に将来の農業者には国際感覚と強い実践力が必要との考えから1年制の実習生事業が創設されました。この時勢の中で事業が発想され実行に移されたということはまさに偉業としか言えません。農家の二・三男対策が大きくクローズアップされてきました。長男は家を継げるけど、二、三男はゼロからの出発という現実的課題がありました。そこで昭和31年に創設されたのがカリフォルニア研修事業です。他力本願ではなく自力で農業をスタート出来るようにとの考えからできたのが3年制の事業です。事業は10年間続き、4,000名の参加者があり多くが自らの資金で農業をスタートさせました。事業の目的達成の外、国の外貨確保に大きく貢献したと聞いています。当事業の終焉に伴い米国政府からの提案があり、昭和40年(1965年)に創設されたのが2年制の研修事業です。農場における研修と学習を組み合わせた内容で幅広い農業青年の研修と海外協力等に貢献する人材の育成を目指すことを目的としています。

私はこの事業の第1回生として参加しました。総勢160名です。昭和41年6月に協会支部があるワシントン州シアトル市からモーゼスレイク市に向けて出発しました。当時日本ではワシントンDCは知られていましたが、ワシントン州は何処?程度だったと思います。州の面積は日本の45%ぐらいです。州を縦断するカスケード山脈を越えて東側に行くと思当たす限り沙漠です。2年間の滞米研修は、6か



米国2年制1回生の出発

月の学習と18.5か月の農場研修で構成されていました。そのうちの3か月の学習が沙漠の真ん中にあるモーゼスレイク市のビッグバンドコミュニティー大学でした。日本からの研修生を迎えるためにあたって我々は勿論ですが送る側の協会も受ける側の大学も初めての経験で緊張があったと思います。しかし、我々は大学からも町からも歓迎されました。寮生活の中で言葉が通じない壁がありましたが身振り手振りでも何とかお互い理解できたようです。それとこの小さな町にも日系米国人の方々がおられ、大歓迎を受けました。週末は出かけて寮が空っぽになることが度々でした。モーゼスレイク滞在中に町の生い立ちを知ることが出来ました。1929年の大恐慌の際に米国政府のニューディール政策によってコロムビア川を塞ぎ止めダムを作り、沙漠に水を引き大農業地帯を誕生させました。モーゼスレイク市はその真ん中に位置します。これはまさにパイオニア的の事業であり我々一回生に求められることだと思いました。この共通の学習後、長期農場研修のため各自が覚悟をもってワシントン、オレゴン、アリゾナ、コロラド、ネブラスカの各州に向け出発しました。1年後、第2回生の177名がビッグバンドコミュニティー大学に迎えられました。この時、1回生は日本の関係者に評価されたと自負を持ったと思います。

70周年記念

海外農業研修 70周年に寄せて



社団法人国際農業者交流協会
元常務理事

本田 親盈 (S36 米 1)

戦後間もなくの1952年に、農林大臣の経験者で農政の神様といわれた石黒忠篤氏と東京大学教授の那須皓氏の両氏の発想により創設され、日本農業近代化と振興のための中核農業者育成を目的とした、農業青壮年海外派遣実習生事業の開始から今年で70年が経過した。この事業は両氏のご尽力により、農業分野で当時世界の最先端を進むとされた米国カリフォルニア州への派遣事業として、当時の州知事アール ウォーレン氏の強力な支援の下、カリフォルニア大学農事普及部がスポンサーとなり開始された。

その後派遣先国として53年度にはデンマーク、56年度にはブラジル、カナダ、ドイツ、スイスなどが加わり、1963年度にはオランダが、64年度にはニュージーランド派遣が加わり派遣先国は8か国となった。

また、1956年度からはカリフォルニアでの実習生事業の好評を受け、二・三男対策事業としてカリフォルニア研修事業（3年間）の派遣が開始された。ただ、この事業は米国側の政策変更により僅か9年で打ち切れ、その後は社団法人農業研修生派米協会が設立して受け継がれ、2年制の事業として生まれ変わり、社団法人国際農業者交流協会の派遣事業として運営された。そして、また形を変えながら現在にまで至っている。

これら事業のOB,OGの数はすでに1万数千人に達しており、日本農業の近代化や発展のために膨大な貢献を遂げるとともに、国際社会においても農業分野での技術移転や教

育指導の分野で活躍している者の数は枚挙にいとまがない。今日の近代日本農業の礎を築いた先達たちの貢献は、畜産分野から園芸部門までのすべての分野をカバーし、多くの専業農家の育成、発展を実現させ現在も継続されている。

世界に通じる貴重な農業体験をされた諸兄のたゆまぬ精進で、次の100周年に向かう後継者育成に努められることを期待しています。

国際農業者交流協会と各位のご活躍をカリフォルニアの地より祈っています。



農業実習生海外派遣20周年記念大会では、上皇上皇后両陛下（当時皇太子皇太子妃）にご臨席賜りました。

70周年記念

わたしは3年制事業を中心に、日系人の歴史を研究している郷崇倫と申します。この事業は国の農業政策や日本人の海外移住といったマクロな視点においてたびたび語られますが、当事者個人の経験といったマイクロな視点においては研究の余地が大いにあると思います。今回は、わたしがこの事業について知るきっかけとなった出来事について、お話しをしたいと思います。

略歴

郷 崇倫 (ゴウ タカミチ)

日系リビングレガシー執行役員

1982年生まれ。台湾系二世。カリフォルニア州立大学フラントン校で日系人の歴史を学び、2006年にカリフォルニア州オレンジ郡の日系人コミュニティの歴史研究を開始。その後カリフォルニア州非営利団体日系リビングレガシーに参加。2007年6月以降、日本を拠点に研究活動および社会貢献活動等を展開している。



ロサンゼルス近郊のバサデナ市で毎年1月1日に行われるローズパレードの様子 (1960年代初頭)

学生時代、わたしはカリフォルニア州オレンジ郡の日系人コミュニティの歴史を研究していました。19世紀末の黎明期～1980年代の長期にわたり、この地域に生きる人々の多くが、農業で生計を立てていました。わたしは歯科医師であった永松先生の協力を得て、長きにわたってコミュニティを支えてくださった人々の語りを集めていました。

2006年のある日、先生はわたしに、「実は、うちには秘密の歴史があるんだ」と言って、興味深い話をしてくれました。

「僕が学生の頃、親父が日本の若者を何人かうちの畑に連れてきて、苺やら野菜の収穫を手伝わせていたんだよ。どうやって親父が彼らを連れてきたのかはわからないけれど、調べてみたら面白いと思うんだよ。うち以外でも日本人をとっていたところはいくつもあったからね。どうかね？」

このときの会話がきっかけとなり、わたしは永松家の「過去」に興味を持つようになりました。しかしながら、必要な情報を上手く集めることができずに、時ばかりが経ってしまいました。

それから1年ほど経ったある日、先生はわたしにこんな提案をしてくれました。

「先日、田中さんという方と会ったのだけど、彼のところはうちと同様お百姓をやっていたんだね。それで、話は彼のワイフのことなのだけど、彼女のおふくろは日本語を話す方で、君が日本語でインタビューしてみたら面白いだろうと思ったのだけど。どうかね？」

そう言って、先生は田中さんの義母にあたる吉岡さんの連絡先をわたしに紹介してくれました。早速、わたしは彼女の自宅を訪れ、当時のことを伺ってみました。すると、彼女は興味深いことを教えてくれました。

「戦争が終わって、キャンプ（強制収容施設）から戻



ロメインレタスの収穫作業（田中農場：オックスナード）



午前7時30分、農場に向かうバスに乗る農業研修生たち（田中農場：オックスナード）

ってきて、うちのハズバンドが、日本から若い子を連れてきたの。ニロウといって、うちではジローと呼んだの。北海道から来た子でね、うちで3年くらい働いてくれたの。」

このときの彼女の語りは、わたしにとっては極めて重要なものとなりました。戦後の一時期、日本人が何かしらの理由で3年間、カリフォルニアで農作業に従事していたことが、はっきりとわかったからです。また、彼女は親切にも、わたしにジローさんの連絡先を教えてくださいました。そして、一時帰国の機会を利用して彼に会って話をきくことにしました。

「いやあ、びっくりしたよー。君はアメリカ人なの？ 日系の方？ 何世になるのかな？ 随分と日本語が上手だね。で、なんで昔のことを知りたいのかな？」

彼は、わたしがやってきたことに、ただただ驚いていました。そして、挨拶を済ませると、わたしは彼のオーラルヒストリーにとりかかりました。すると、それまではフランクな態度でわたしに接していたジローさんが、真剣なまなざしでわたしに語りかけました。

「国際農友会という組織があって、俺は先輩の勧めで応募したんだ。アメリカで働けるとか、お金をたくさん稼げると言われたからね。たくさんの人が応募したから無理だろうと思ったけど、一生懸命やって、周りの人々も応援してくれてようやく選ばれたんだよ。」

「俺達が若かった頃は、中学や高校を終えたらお金持ちのところは大学へ、そうでないと就職、あるいは自衛隊だったんだ。俺の場合はアメリカの吉岡のボスのところで3年間働いたよ。イチゴやら野菜やらをもいだ。仕事は大変だったよ。何時間も腰を曲げて作業をするんだ。畑の畝なんて、日本のものとは比べものにならないくらい長くて、何百メートルもあるから、たった1列作業しただけでヘトヘトだったよ。それも、朝から晩までずっと農作業。しかもメキシカンと一緒にいると競争になって、誰が一番早く

イチゴをもげるか、苗を植えられるか、間引きできるか、そういうのを競ったよ。」

彼の語りは、当時の人々の存在を生き活きと伝えるものでした。戦争が終わって間もない頃、当時の日系人コミュニティにおいては戦後の復興期にあたりますが、そのような重要な時期に日本人が日系人の経済活動を支えていたという事実は、わたしにとっては非常に衝撃的なものでした。

同時に、このような事実を残さねばならないとも思いました。アメリカに戻りジローさんとのやりとりの一部始終を永松先生や大学の先生方に話すと、彼らは強い興味を示してくれました。

~~~~~

おかげさまで、このような出来事があって、3年制事業の歴史研究はわたしのライフワークへととなりました。以後、カリフォルニアに住んでいる方々、そして日本に住んでいる方々、双方のご協力をいただいて今日にいたります。

3年制事業に携わった皆様へ、この記事を読んでくださり、ありがとうございます。私は現在もこの事業にかかわった皆様のオーラルヒストリー（インタビュー）を実践しています。興味がありましたら是非ご連絡ください。

メールアドレス [tgo@jalivinglegacy.org](mailto:tgo@jalivinglegacy.org)  
電話番号 090-6153-4158

**AIG損害保険株式会社**



東京法人営業統括部  
東京コーポレートキャリアエージェント営業部  
営業1課 担当：室田

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル 17F  
TEL : 03-5637-0721 FAX : 03-3622-2040

# 研修生からの便り

## 私の日常

佐々木 未菜 (埼玉県 R3 アメリカコース)  
配属農場：Kula Country Farms



ウミガメに遭遇！感動！



人との出会いも充実します

Aloha！私は冬でも日中半袖で過ごせるハワイ州マウイ島で研修しています。ここでは主にカボチャ、イチゴ、ブルーベリー、スイートオニオンを育てており、マウイ島で唯一パンプキンパッチ（カボチャ販売やそれに合わせた楽しいイベント）を行うファームです。そのため毎年ハロウィンには、たくさんのお客さんが農場にやってきました。ちなみにマウイ島ではカボチャはKabochaで通じます。

私がこのファームで最初に驚いたことは「雑草の多さ」です。毎日雑草と戦っているのですが、ある日自分の背丈ほどの雑草が生い茂っている場所に連れてこられ、何をするのかと思っていると、「ここでカボチャを収穫しろ」と言われとても驚きました。手で平泳ぎするように雑草をかき分け、一生懸命収穫をしました。…

たまたまカボチャを踏みながら。作業は他の従業員と一緒にしていて、私はいつも最後尾になってしまいます。単純な作業ですが自分が周囲についていけないのを感じ



パンプキンパッチ、スタンド入口

ます。農業の大変さを感じるとともに、最近は自分に適した効率的な作業の仕方について考えるようになりました。

私はバスを利用して出かけるのがあまり好きではなく、かといってただ部屋でゴロゴロするのも嫌なので、お休みもファームで作業させてもらうことが多いです。先日は初めてビーチに連れて行ってもらったので、シュノーケリングを試したらアオウミガメと会うことができました！そして、ラハイナの沿岸を車で走っているときに、なんとクジラを見ることもできました。その他にも、パンプキンパッチで出会った日本人やその友達たちと一緒に、ファーマーズマーケットで誘われたマウイ島のポップアップパーティーにも連れていってもらいました。アメリカに来てから作業も休日も、日本では経験できないことをたくさん味わえるのでとても充実しています。

そして来年のパンプキンパッチと専門学習で同期のみんなに合えるのを楽しみに、残りの研修も精一杯頑張っていきたいです。

## ここでしかできないことを存分に！

深澤 満理奈 (愛知県 R3 オランダ)  
配属農場：GAOS

私は帯広畜産大学を休学し、現在はオランダの有機農家で研修に励んでいます。

ここでは、持続的な農業を目標に、バイオダイナミック農法を採用しており、作物や家畜自体が持つエネルギーを効率よく利用することが特徴です。

また、20種類以上の作物に加え牛、鶏、羊を飼育しているので、私の日々の作業はとてもバラエティーに富んだものになっています。

研修開始当初の春には、牛の給餌、昨年収穫した馬鈴薯、玉ねぎ、人参の包装を行い、そのうちに段々と除草作業が多くなりました。そして夏を迎えると各野菜の収穫に追われ、最後の赤キャベツが終了した現在、春と同じルーティーンに戻りつつあります。

その他にも臨時で羊の引越、収穫用ボックスの掃除、花壇の手入れ、時には農業機械のパーツづくりなど多岐にわたる経験をしています。

また、この農場では様々な



大好きな農場での農作業

国からの研修生を受け入れているので、これまで10ヶ国以上もの異なる国籍の人と交流しました。

年代も14歳の学生さんから80代の熟練農家さんまで。さらに農業へのかかわり方も様々で、農業学校の学生さん、種子会社、スーパーマーケット、農機具会社に勤めている人、取材に来た地元テレビ局の人々など多様です。

このような人との交流では、異なった環境で育った彼らの意見に共感できないことも多々ありましたが、自分と違う考え方や意見を知ることが楽しいです。

また、会話を進めていくにつれ共感できる点を見つけ親しくなったりなれなかつたりを繰り返していくうちに農業のみにとどまらない学びを得ていると実感しています。

日々の生活の中で研修へのモチベーションが下がってしまうこともありませんが、私の配属先農家さんが面倒見の良い人であることもあり、とても充実した研修をさせて頂いています。

残りわずかですが、ここでしかできないことを存分に満喫して、さらに充実した研修にしていこうと思います。



赤キャベツの収穫



## “ 貴重な出会いに感謝 ”

鈴木 里穂 (千葉県 R3 オーストラリア)  
配属農場 : Lower Don Organics

私はクイーンズランド州ボーエンで家族経営のオーガニック農園にて研修をしています。この農場は女性アグロノミスト(農学者)のボスが5年前に大きく生い茂ったマンゴーの農場を購入し経営を始めました。当初マンゴーのみだった農場を、トマト、ナス、パッションフルーツといった品目を増やしながら面積拡大し、オーガニック認定を得て生産をしています。今はご主人と家族と共に経営しています。

研修は5月からスタートし、本夏が始まるまではマンゴーの木の剪定やトマトやナスの植え付け、その他野菜含め収穫や箱詰めを



ボスと一緒に

しました。現在はマンゴーの収穫と箱詰めをしています。一つ一つの作業を丁寧にスピーディーに、を心掛けていますが、丁寧すぎてスピードが遅くなるため、ある程度の見切りが大切だと感じました。その見極めに自信が持てるまでマネージャーに確認を何度もしました。

私は2年前に全く違う職業から農業の道を志しました。新しい視点を得

るため、言語の習得のためこの研修に参加しました。1年間も日本を離れたことはなかったので日本の生活のありがたみを感じたり、逆にオーストラリアの良い部分を感じたりします。オーストラリアの農業は面積が広いので、トラクター、ハーベスターなどの機械が大きかったり、定植ではトラクターの後ろについた椅子に2人並んで座り前進に合わせ手で植えていくスタイルなど新鮮です。オーストラリアの農業は効率重視だと思います。プライベートは研修先の家族が食事会や誕生日会に招待くださり、オーストラリアのボードゲームやお酒を飲みながらお話しできて充実しています。それ以外でも出会った多くの方が良い人で、自分もこういう人になりたいと憧れます。研修に参加していなかったらこの素晴らしい出会いはなかったし、いっそう農業が好きになりました!

貴重な一瞬一瞬を大切に、お世話になった方々や家族、友人へ良い報告ができるよう残り少ない研修を悔いしないよう過ごし精進してまいります。



プランティング作業

## “ 今を頑張る ”

平井 碧 (熊本県 R4 アプレンティスシップ研修生)  
受入農場 : 横田牧場 (横田 久憲 宮城県 S9 米 2)

私は今、宮城県の和牛繁殖農家の横田牧場で研修を行っています。この牧場には繁殖母牛が約120頭おり、採卵(受精卵販売)にも力を入れています。

国内農業実習をするにあたり、私ははっきりとした将来設計が出来ておらず、ふわふわしていました。そこで、来年アメリカでの研修に参加する前に、農業経験はもちろん考え方や将来の計画など、しっかりとしたものを持ちたいと思って参加することを決めました。

農場主の横田さんは新規就農でゼロから牧場を始めた方なので、とてもストイックです。仕事をしているとき失敗するとすごく厳しく叱られます。怒鳴られ、帰れと言われ、怒られることに慣れていなかった私にとって、とても厳しい環境だと思います。しかし怒られる原因は私にあって、ちゃんと報告をしないことや何度も同じミスを繰り返していることに、自分の弱さや未熟さを痛感する日々です。

私は将来実家の牧場を継ぎ、100頭規模にまで大きくしたいという目標があります。大規模経営にするために、牛や経営の知識や効率的に仕事をするなど、まだ私に足りない部分がたくさんあります。

私がこの研修で力を入れていることは「牛をみること」です。餌の食べ具合や行動から健康状態や発情を見つけます。しかし見たつもりになって牛の変化に気づけていないことがありました。横田さんに着目点を教えてもらいながら、短い時間でも効率的に多くの頭数をみる事ができる様に頑張っています。

初めは怒られて怖い、どうしたらいいかわからないという気持ち



子牛の授乳中



農場では機械操作も任されています。

が大きかった研修ですが、今はたくさん支えてもらっている分頑張らないといけないと思っています。国内研修も残り4ヶ月ほどになってきました。残りの研修期間でも多くのことを吸収したいと思います。そして、将来、横田さんに自慢できる農場経営ができるようにアメリカ研修や帰国後に努力して頑張っていきたいと思っています。

**Hakusan** 株式会社ハクサン

海外研修を受けた皆さん、  
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで  
〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776  
E-mail:info@hakusan1.co.jp https://hakusan1.co.jp/

## 令和5年度海外農業研修生募集！

令和5年4月1日より、令和5年度農業研修生海外派遣事業の募集がスタートします。

新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、ウィズコロナの時代を迎えて、海外農業研修の在り方、募集の仕方にもより一層の工夫が必要となっております。未来の農業者育成を担う本

事業を運営していくにあたり、OB・OGの皆さんのご支援が必要です。

皆さんのキャリアや体験談を積極的に周知していただき、海外農業研修で学んだことや、この時代だからこそその海外農業研修の良さを広めていただきますようお願いをよろしくお願いいたします。



欧州研修生の春季会合、スイスにて

## 受入農家を募集中！

協会では、海外から農業研修生の受入事業や主にフィリピンとタイから技能実習生の受入事業を実施しています。特定技能に関する事業も行っています。農場の規模拡大に際して人材が必要、外国人技能実習生に興味はあるけどサポート体制のあるしっかりとした組織にお願いしたい、あるいは、実際のところ外国人の受け入れには不安があるという皆様、是非お気軽にお問合せください！！

研修生・技能実習生・特定技能の受け入れによって個々の経営の発展ばかりでなく、国際交流を通じて地域を活

性化させていきましょう。

《お問合せ》

受入業務課

電話：03-5703-0254

メール：jaec01ukeire@jaec.org



沖縄の受入農家と一緒に

## 事業関係者の動向

訃報 謹んでご冥福をお祈りいたします。

Tommy Haruo Yotsuuye 氏

長年、研修生の受入農家をして下さった Tommy Haruo



Yotsuuye 氏が 2022 年 11 月 16 日に亡くなりました。81 歳でした。

## 賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

### ●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。

### ●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。

ご寄付にあたってはゆうちょ銀行（同封の赤色の払込取扱票）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

| 払込取扱票                                                                                        | 銀行振込先口座                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ゆうちょ銀行<br>加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会<br>口座番号：00110-8-538246<br>◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。 | みずほ銀行 蒲田支店<br>普通：3106914<br>口座名：公益社団法人 国際農業者交流協会<br>シヤ) コクサイノウゴウシャコウリュウキョウカイ<br>◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。 |

賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることができます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。

[https://www.koeki-info.go.jp/pictis\\_portal/other/zeisei.html](https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html)

賛助会費・寄付金へのお問い合わせはこちら  
 電話番号 03-5703-0251



## 協会の動き

令和4年6月16日以降(NF252にて紹介後)に御寄付頂いたのは次の方々です。(令和4年12月6日現在)

北海道/ 田中 滋久 瀬口 俊行 中山 範 高松 正忠 青森県/ 七戸 堅 藤井 英雄 岩手県/ 横石 善則 小山田 敦 三浦 利章 宮城県/ 曾根 善哉 高橋 惣一 松崎 安典 横田 久憲 秋田県/ 千島 義和 深澤 誠 山形県/ 伊藤 誠之 渋谷 政信 福島県/ 箭内 正次 茨城県/ 大原 篤 田崎 秀明 栃木県/ 伊藤 直樹 群馬県/ 後藤 幸三 大山 岳志 森田 精一 埼玉県/ 石井 豊史 羽鳥 雄一 深井 博 千葉県/ 藤井 佐紀子 末石 博邦 岩澤 正直 東京都/ 三好 政司 風間 徹 丸山 隆昭 高杉 晋一 前原 四郎 伊藤 一男 豊田 正則 神奈川県/ 福田 行洋 福原 康人 和田 良一 石渡 康郎 新潟県/ 長橋 良穂 荻 荘 誠 仁多 見 繁隆 田島 静夫 松原 守 家老 洋 富山県/ 酒井 進 石川県/ 南出 清司 福田 進 藤村 幸司 山梨県/ 雨宮 一敬 長野県/ 岩田 康宏 栗田 米男 清水 次男 静岡県/ 鈴木 好之 愛知県/ 後藤 敏子 横山 賢一 三重県/ 水野 三隆 草川 久生 京都府/ 近藤 康人 中野 宏 砂川 祐司 小嶋 直樹 大阪府/ 西野 安藏 兵庫県/ 汐谷 保 加藤 寿之 奈良県/ 水田 恵一郎 鳥取県/ 梅津 博文 島根県/ 白根 正志 岡山県/ 妹尾 始 岡邊 多恵子 広島県/ 栗田 賢 山口県/ 木下 辰己 村上 成人 徳島県/ 楠 正人 香川県/ 間嶋 亨 愛媛県/ 渡辺 吉男 幸野 千代志 工藤 清志 広沢 初志 梶谷 大治 高知県/ 森本 長利 福岡県/ 田中 清喜 佐賀県/ 稲富 篤 松隈 邦博 長崎県/ 藤川 勇 里崎 徳一郎 熊本県/ 上野 政重 小嶋 綾子 一瀬 俊郎 大分県/ 仲野 金郎 宮崎県/ 甲斐 秀徳 黒岩 克成 武田 馨 松岡 洋一 鹿児島県/ 牧之 瀬 正廣 板元 岩雄 川野 真砂子 沖縄県/ 宮城 孝次 仲本 英宏 その他/ 派米10回生同期会(順不同、敬称略)

また同じく、今回新たに賛助会員へ入会されたの方々です。

北海道/ 糸屋 新一郎 青森県/ 平井 秀樹 岩手県/ 佐々木 嘉春 紺野 啓 宮城県/ 半澤 善幸 今野 建司 福島県/ 大内 俊昌 栃木県/ 和氣 達哉 柳町 広 埼玉県/ 石井 豊史 細田 保浩 羽鳥 雄一 千葉県/ 藍川 英樹 磯貝 正一 林 百合香 神奈川県/ 早藤 義則 吉田 勝一 伊藤 洋文 福井県/ 建石 正治 武藤 明彦 長野県/ 横森 利明 青野 勝 菊池 辰夫 高見澤 宣男 菊池 隆明 原田 雅明 栗田 米男 高見澤 良夫 嶋崎 兵治 井澤 亮 栗田 茂 中道農園株式会社 井出 博彦 今井 瑞穂 由井 元成 上田 眞一郎 菊池 久登 道木 太郎 浅見 満 富永 創治 静岡県/ 渡辺 守男 兼子 保峰 愛知県/ 内藤 完次 宮下 優子 横山 賢一 京都府/ 小嶋 直樹 和歌山県/ 富岡 幸男 橋詰 孝 岡山県/ 石原 直樹 大内 盛勢 広島県/ 光永 浩章 愛媛県/ 工藤 清志 田村 隆悟 森崎 正 福岡県/ 田中 信喜 熊本県/ 中川 利美 宮崎県/ 富満 哲夫 向高 亮次 沖縄県/ 石川 清友 林 昌平 喜友名 朝秀 株式会社 ファインフルーツおおぎみ(順不同、敬称略)

## 協会人事

退職 | ~お疲れ様でした~ 令和4年10月31日 高橋 竜生 (業務部受入業務課職員)

### 編集後記

子供が通っていた小学校で飼育していた烏骨鶏がいつの間にかいなくなっていた。息子が飼育当番の時一緒に草やパンくず、ミミズなどをあげると喉を鳴らせてついでに草を食べていたが、卒業してからは意識の外にあり、先日ふと気になって小屋をのぞくとめぬけの殻だった。時々可愛がるのは真実の愛情ではないよなと思いつつ、握っていたパンくずを払い捨てた。



# 全国農業新聞



週刊 月4回金曜日発行  
月額700円、年額8,400円

- お申込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください
- 発行所 一般社団法人 全国農業会議所  
〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-8 中労基協ビル  
電話03-6910-1130(平日9~17時、土・日・祝は休み)  
ホームページ <https://www.nca.or.jp/shinbun/>

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める

## 電子版を配信中!!

あぐりオンライン

検索



クレジットカード払いのみでのお支払いとなります

月4回・毎週金曜日・午前0時配信 購読料 月額500円・年額6,000円





R4年度欧州豪州農業研修生達の事前研修。明日に向かって進め！

## Vol.27 contents

|            |     |
|------------|-----|
| ご挨拶        | 1   |
| 各ブロックからの報告 | 2～4 |
| 天地人        | 4   |
| 会員のひろば     | 5   |

### 千思万考

国際農友会 会長  
星智宏（宮城県 / S58 / 米2）



新年明けましておめでとうございませう。

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は会員皆様にはコロナ禍の中での活動等のお力添えをいただき感謝申し上げます。

今年も更なる飛躍になるよう、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、ロシアによる軍事侵攻が続いてるウクライナ、もう11か月が経過しています。

いまだに執拗なミサイル攻撃がなされ、すでに沢山の人の生命と財産を奪い、自由をも奪い続けている戦争です。ロシア国民が推奨している戦争ではなく、情報統制もそろそろ綻びがでてきているように思えます。

農業資材を巡っては、肥料や飼料の原料の国際相場が高騰し石油

製品の生産価格も上昇、農家を直撃しています。このことについて、経費が増加し事業運営に影響がある農林漁業者等に向けた償還期間据置の貸付型特別対策資金が国から準備されています。

さらに、世界的な半導体不足で新車の供給が滞り、中古車の需要増加で価格が高騰しています。以前仕事に使用していた高年式の2tダンプを廃車にして畑の隅に放置していたら、パキスタン人が来て「買います」と流暢な日本語で話かけてきたことがあります。確かに廃車や農機具の買い取りに外国人がよく見に来ていると耳にしていたました。買い取った車や重機類はパキスタンに輸出かと思いきや、日本海側からロシアに流れているようです。ロシアは経済制裁で600万円以下の乗用車のみ輸出可能ということですが、産業基盤に圧力をかけるため貨物自動車や重機類も輸出禁止になったようです。日本車は故障が少なく中古車品質が良いとされ価格も下がらないことから、ロシア人には資産価値があるとされ人気があるようなので、結果的にプーチン政権を利する制裁の抜け穴になっているようにも思えます。

ロシア国内から軍事侵攻を止める反戦の声が大きくなり政権に働きかけ、平穏な生活が戻ることを心より祈ります。

### 今、何が出来るのか？

国際農友会 副会長  
檜垣真城（愛知県 / H3 / デンマーク）



この数年来、人と人の交流が途切れ組織会議などもインターネットを介して難題の協議に明け暮れました。

私も、まずは不慣れなところ四苦八苦しながらソーシャルネットワークサービス（SNS）、そしてオンライン会議アプリ（Zoom）などを活用しています。

「今、何が出来るのか？」と知恵を絞って国際農業者交流協会はもとより国際農友会、そして、各県組織と連携をはかりながら可能な限り尽力し続けています。

コロナ禍になって3年。徐々にではありますが各県組織活動も再開し始めているかと思えます。理事会や役員会をはじめキャラバン活動、ブロック別国際化対応農研研究会等々も対面式での活動が実現し始めました。勿論、従来と全く同じではなく、オンラインのメリットは活かし、効率よく協議を深め、余計な経費の削減にも繋げて行けたらと思います。

そして、今年こそは、皆さんと一杯酌み交わせる年になることを願っております！

# 組織の在り方、新たな仕組みとネットワークへ

齊藤 誠幸

(北海道/H21/スイス)

全国の各地でたくさんOB・OGが活躍されていますが、ここ北海道でも農業をはじめ様々な分野において活躍されている方がたくさんいます。北海道は全国最大の農業地帯で、数多くの研修生を排出しているにも関わらず、組織活動の基盤となるネットワークが構築されていないのが現状です。実際広大な北海道では地域を網羅するのも大変です。

しかし、全国それぞれの組織のあり方も運営の仕方も存在の意義も変わってきている中で、北海道でも何かできないかと思っ

北海道内の啓発キャラバン活動では、私も毎年微力ながら他のOBと共にお手伝いさせていただいております。本年度も北海道大学、酪農学園大学、拓殖大学北海道短期大学、北海道農業大学校、帯広畜産大学で実施されました。これら大学の学生は、道外からきている方も少なくありません。協力する中で、少なからず「つながり」から得られるものもあるのではないかと思う時があります。

私は今農業でなく販売業に就いています。「農」から生まれる食べ



啓発キャラバン

物を活かすため、消費者へ繋げるための仕事です。食べ物消費者の元に届くためには育てる人だけでなく、加工する人、運ぶ人、売る人、様々な人が関わり、デジタル化も進む世の中で、今まで関わってこなかった分野のところも身

近な存在となっています。

そんな現代だからできる「つながり」、そこから生まれるものがあるのではないかと考えます。生産する人だけの繋がりでなく、分野の垣根を越えた繋がりがこれからの社会に発展を見いだすことができるひとつのヒントなのではないでしょうか。

# 関東甲信静越ブロック営農研究会を終えて

栃木県国際農友会 会長

大森 則子(栃木県/H16/米1)

今年には栃木県国際農友会にとつて忙しい年になりました。11月21日栃木県宇都宮市にて関東甲信静越ブロック営農研究会を3年ぶりに開催し、久しぶりにブロックメンバー同士顔を合わせる事ができました。実際に会って対話ができることの素晴らしい時間を再確認、有意義で楽しい時間を共有することができました。

関係者の皆様の長期間にわたる多大なご尽力のおかげです。改めて心より御礼を申し上げます。

今回のテーマは「持続可能な農業農村の発展を目指して」。ここ近年はコロナ禍に加え国際事情や経済状況がますます不安定化し、農業だけではなく世界中が厳しい状況に追い込まれています。私たちにできることは何だろうか？コロナの特効薬を作ることもできないし、国際紛争の仲裁に入ること



佐川氏の基調講演



組織会長挨拶



栃木県 OB 山崎氏発表

自分たちの生活を守ること。そのためには今一度自分を見つめなおし良い方へ変えていくという、当たり前ですが地道な努力が必要だと改めて思いました。今回の基調講演者佐川友彦様も「守りながら変えてゆく」をテーマに阿部梨園様での事業改革に取り組み、そのノウハウを惜しみなく公表しています。

営農研究会の準備を進めていく中で栃木県国際農友会の大先輩である五月女昌巳さんに「コロナを理由にしてはいけません」と言われたことがあります。変化に労力を伴う時「もう歳だから」「リスクがあるから」と理由をつけて尻込みしがちです。コロナ禍の3年間「コロナだから」という言葉を水戸黄門の印籠のようにかざし、自分の都合の良いように使っていたのではないだろうかと思ひ至り反省しました。今後はコ

もできない。大規模農業法人を立ち上げ日本の食料自給率を100%にするのも直ぐには無理です。私たち個人ができることは、まず

コロナの印籠は封印し、周りの人間関係を大切にしながらより良い栃木県国際農友会を目指して頑張りたいと思います。

## 共感したいこと

岐阜県国際農業者交流協会  
横田 千洋 (岐阜県/H6/米2)

「魚つき林(うおつきりん)」という聞き慣れない言葉があります。魚つき林とは川や海の生物に好影響をもたらす森林を指す言葉で、山に降った雨が染み込み洪水を防ぎ、同時にキノコの菌や微生物を川から海にまで運ぶことで生物が潤う循環のことを言います。

原木しいたけ栽培をすることで地球環境を守り、食べたお客様にも美味しいと喜んでいただける。試食販売などを通じてこの「魚つき林」の話をするとお客様も「原木しいたけを食べることによって私たちが環境保全に一役かっているのね」と共感していただけます。

環境と人との繋がりが、今後も次世代に伝えていきたい



対面での販売

です。

## 外国人実習生におもう

岐阜県国際農業者交流協会  
井上 岳洋 (岐阜県/H6/米2)

28年前、何をしたい何かを学びたいということもなく、ただアメリカへ行きたい！という思いから、海外農業研修で渡米しました。

帰国後は複合経営(トマト、アールスメロン、菌床椎茸)を行い、少しずつ規模を拡大してきました。私が今まででこうしてやってこられた要因の一つが、海外農業研修での経験です。

派米研修の先輩方、同輩。派遣



農場にて

先のボス、メキシコ人労働者たちと共に働いたこと、全てが良い思い出です。

そして現在、4名のベトナム人女性が我家の経営を支えてくれています。

時々、外国人労働者による事件など目にします。雇用主や心ない日本人が彼らを不当に扱うことが一因かもしれない。私は日本の農業を支えに来てくれている彼女らに、良い思い出を作ってあげられる農業経営をして行きたい。かつて自分がしていたように。

## 海外農業研修生 70 周年

中国・四国ブロック代表理事

檜垣 真城 (愛媛県/H3/デンマーク)

私たちの大先輩である、初代研修生の派米から70年が経ちました。私たちが愛媛県国際農業者交流協議会の初代会長である宮本保氏がそのうちの1人です。その時から脈々と続いてきている農業研修生海外派遣事業を鑑みるに、発展の礎となり、私たちが今日まで導く灯となっていたことに深い感慨



島根県で開催された令和4年度営農研究会

りますが、仲間との忘れがたい輝きに満ちた友情の日々、溢れんばかりの夢と希望を語った思い出、そして、自分を成長させてくれた海外農業研修を一緒にお祝いしましょう！

コロナ禍が続く、今もって状況が変りやすくはありますが対面での開催を目指しています。大事なひと時を皆さんと一緒に過ごせるならば何よりです。同郷の仲間、同期の友をお誘いあわせ頂き、愛媛県自慢の道後温泉に浸かりながらゆったり語り合ってみてはいかがですか？ご来県お待ちしております。

話題は変わりますが、中国・四国ブロックでは昨年11月26日に島根県にて国際化対応営農研究会を開催しました。島根大学での開催で学生の皆さんもご参加くださっていました。そして何より、ウイズコロナの社会に向けて対面での開催となり、い

を覚え、感謝に堪えない思いです。

本会では10年毎に記念行事を行ってきています。そこでこの70周年の機会にも、記念式典を実施することとし、令和5年2月11日(土) 14時~18時ホテルマイステイズ松山で開催される運びとなりました。皆さん、海外農業研修は長い人生のわずか1~2年ではあ

よいよ活発にOB・OG同士、組織同士の交流が活性化していくならば良いと心より思うところです。ちなみに、来年度は香川県での開催を予定しています。同県内のOB・OGの皆さんはさることながら、久しく語らう機会のない近隣の仲間たちとも再開できるのが楽しみです。

## 九州ブロック国際化対応営農研究会in大分

大分県国際農友会 事務局長

森永 大直 (大分県/S63/米2)

この話を始めたのは令和3年の3月、由布院にある我々の秘密基地「アジト」にて役員数名でのスタートでした。その後はご承知のとおり、幾多のコロナ禍の波に翻弄されながら、集まらない焦りと進まない不安の中、ここまで幾ヶ月を重ねて来ました。

今回の営農研究会テーマは「農業・農村の継承と課題」担い手、そして担わせ手」。

1日目は、担い手にフォーカスして「大分県の新規就農促進の歩みと課題、その成果」が話題です。今から30〜40年前、大分県は新規就農促進の先進県としてその取り組みをスタートして来ました。双方に良さそうに見えた土地と人とのマッチング事業も、蓋を開ければ問題が多く、反省と工夫の連続の歴史の挙げ句、今どんな成果を上げているのか？大分県の農村再生プログラムの真相に迫ります！

2日目は、「担わせ手」である会員の皆さんにとって近い将来の重要課題の経営継承に言及します。まず講師に興味深い情報提供を頂いた後、テーブル毎のグループディスカッションに分かれます。従来2日目は現地見学研修が主流ですが、久しぶりに集った仲間同士で大いに語り合っただけで、大

戦です！経営継承形態の同じ様な仲間どうして是非、素面で語り合っただけで、また明日から前進出来る様なヒントを得て頂けたら幸いです。

そして最後には「スマート農業へのいざない」と題して今の最先端の農業技術を紹介します。SNS・AI・ドローン等を駆使した圃場での効率UP・生産力向上の技術から、簡便便利な経営管理アプリ等、きつと手が出るオススメ情報満載です！

コロナ禍との闘いも今や万全対策の上、恐れず積極行動で社会を回転させるべき局面です！これまでの淀んだ幾年月を打破する様な勢いのある会を、参加頂いた皆さんと一緒に演出できたら本望です。どうぞご期待下さい！



2月に営農研究会を開催します



対面での交流がやっぱり1番！

# 天地人

てんちじん

## 人は城・人は石垣・人は堀

国際農友会 顧問  
本間 惇 (東京都/S41/米1)

協会創立70周年の金字塔を築いてこられた全国の諸兄と心から喜びあい、明日への前進の為に邁進いたしましょう。

廃土となった国土、満足な食料も無く荒れすさんだ国民に復興の光を見出す目的で、農林大臣を務め農政の神様と言われた石黒忠篤氏らが、若き青年達を農業先進国に派遣することで「将来の世界平和を農民の連携と交流を通じて実現する」た

めに、1952年に米国へ46名を旅立たせた。

翌年にはデンマークへ9名と米国へ83名が横浜港から出港した。船には英国のエリザベス女王の戴冠式に出席される皇太子時代の上皇さまが同船されており、渡航中は英会話やダンスなどを共にされたことから我々の組織の記念行事には親しくご臨席を頂いてきた。

20周年記念大会のレセプション会場で皇太子ご夫妻は、私に実習体験を英語で質問され、同伴した米国でのホストに握手して下さったことは生涯の思い出となった。

その後の私に「宝の山農業を豊かにする」ことをライフワークに選ばせたのは、米国での1年間の実習生活と多くの友人たちとその後続く「草の根大使」としての働きに他ならない。

私達16回生130名は、帰国後に記念誌「あすへの前進」を発刊したが、当時の国際農友会片桐真吉会長から巻頭に「古い大地は 新しい種子を 蒔こう」の直筆を頂いた。今でもこの本を開き、往時の苦勞を共



研修生を見送る石黒忠篤氏

にした仲間を想い、国際農友会の後輩たちが道を拓く力になりたいと願っている。

「天地人」コーナーの命名者として、武者小路実篤の詩文「天に星地に花 人に愛」を座右の銘としているが、まさに心ある農業者の生涯を照らす名言であると思うし、農友会活動には上杉謙信が言った「天の時、地の利、人の和」が求められるだろう。

今こそ多難な農業界の将来を託すべき青年達を海外に送り、育てる為に戦国武將の武田信玄の言葉「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」をかみしめ、鏡としたい。



## 会員の動向 (敬称略、順不同)

### 同期会

昭和 47 年度欧州派遣研修生同期会  
令和 5 年 10 月 28 日～ 29 日  
島根県 玉造温泉



平成 6 年度欧州派遣研修生同窓会  
令和 5 年 11 月 12 日、13 日  
福島県双葉郡浪江町



### 叙勲・受賞

令和 4 年秋の叙勲  
旭日双光章 田中 孝博  
(香川県/S47/米1)  
令和 4 年秋の褒章  
黄綬褒章 吉田 哲士  
(香川県/S49/米1)

### 当選

令和 4 年 4 月  
北海道安平町議会議員  
内藤 圭子  
(北海道/S58/デンマーク)

### ご逝去

|              |         |                |             |        |                 |
|--------------|---------|----------------|-------------|--------|-----------------|
| 平成 25 年 10 月 | 入江 近恵   | (香川県/S35/米3)   | 令和 3 年 3 月  | 平野 展主  | (岐阜県/S32/米3)    |
| 平成 27 年 10 月 | 三上 光世   | (青森県/S37/米1)   | 令和 4 年 4 月  | 宮澤 玉治  | (群馬県/S32/米3)    |
| 令和元年         | 松尾 俊一郎  | (福岡県/S35/米3)   | 令和 4 年 4 月  | 関山 英武  | (北海道/S38/米3)    |
| 令和 2 年 3 月   | 田中 寿行   | (東京都/S31/米3)   | 令和 4 年 4 月  | 服部 年晴  | (和歌山県/S59/米1)   |
| 令和 2 年 5 月   | 平野 隆吉   | (神奈川県/S32/米3)  | 令和 4 年 5 月  | 麓 昭生   | (熊本県/S34/米3)    |
| 令和 2 年 9 月   | 執行 隆義   | (三重県/S34/米3)   | 令和 4 年 5 月  | 伊勢田 博通 | (青森県/S45・47/米2) |
| 令和 3 年 4 月   | 石和田 四兵衛 | (千葉県/S28/米1)   | 令和 4 年 6 月  | 石井 久次  | (新潟県/S34/米3)    |
| 令和 3 年 4 月   | 貝田 喜彦   | (長崎県/S38/米3)   | 令和 4 年 6 月  | 足立 淑世  | (島根県/S32/米3)    |
| 令和 3 年 6 月   | 長内 次男   | (青森県/S32/ブラジル) | 令和 4 年 6 月  | 小出 立彦  | (神奈川県/S42/米1)   |
| 令和 3 年 6 月   | 根津 勝利   | (山梨県/S37/米1)   | 令和 4 年 7 月  | 車田 次夫  | (福島県/S35/米1)    |
| 令和 3 年 6 月   | 橋本 太久美  | (埼玉県/S38/米1)   | 令和 4 年 10 月 | 天野 治   | (愛知県/S49/米国1)   |
| 令和 3 年 7 月   | 宮崎 光弘   | (長野県/S41/米2)   | 令和 4 年 11 月 | 谷富 智啓  | (熊本県/S45/米2)    |
| 令和 3 年 11 月  | 土井 秀則   | (香川県/S44/米1)   | 不明          | 赤石 伊市  | (群馬県/S34/米3)    |
| 令和 3 年 12 月  | 原圃 千村   | (京都府/S33/米3)   | 不明          | 熊川 雅記  | (群馬県/S38/米3)    |
| 令和 3 年       | 宮本 関人   | (大分県/S35/米3)   | 不明          | 林 猛夫   | (岡山県/S37/米3)    |
| 令和 4 年 2 月   | 野口 公臣   | (長崎県/S34/米3)   | 不明          | 佐々木 孝志 | (宮城県/S37/米1)    |
| 令和 4 年 2 月   | 安西 善作   | (神奈川県/S32/米3)  | 不明          | 田中 正武  | (広島県/S31/米3)    |
| 令和 4 年 2 月   | 船橋 博和   | (和歌山県/S32/米1)  | 不明          | 鎌守 和徳  | (東京都/S44/米3)    |
| 令和 4 年 2 月   | 菊永 哲也   | (鹿児島県/S38/米3)  | 不明          | 石丸 翼   | (佐賀県/S34/米3)    |
| 令和 4 年 3 月   | 大杉 清二   | (広島県/S35/米3)   | 不明          | 川村 智且  | (神奈川県/S44/米1)   |

### 「土からの学育」

幼児から研修生まで、その「やろう！」とする気持ちを育み伸ばします!!

もりなが ひろなお  
**森永 大直** (大分県/S63/米2)

- 森永農園 園主：梨の生産・販売・作業受託
- JAEC：US 西日本講習所長
- 国際農友会 理事
- 大分県国際農友会 事務局長
- 学術教育指導者：庄内元気の教室/ゆふいん元気の教室
- 雲取神楽社 副代表



### 編集後記

知人の軽自動車が、夕方山側の農道を走行中にイノシシと衝突！100Kg級の大型で衝撃が凄く、フロントバンパーは粉碎、左フェンダーとドアが大きくへこみ見るも無残な状態。何でも2か月前に買ったばかりの新車だとか…。賠償責任を求める相手もなく、せめてイノシシが身を切ってくれていたらとの友人談。

